

## 【事例 H26-02-02】福岡県北九州市

児童・生徒に対する自殺予防教育の推進  
＝臨床心理士会・教育委員会・精神保健福祉センターの協働による実践＝

福岡県臨床心理士会、市教育委員会、精神保健福祉センターの三者の既存の連携により、教材（リーフレット）開発、人材育成等を通じて、学校現場への自殺予防教育導入を図る。

【実施主体】福岡県北九州市

【大綱の分類】国民一人ひとりの気づきと見守りを促す②

【事業予算】平成 21～25 年度 4,196 千円（4,196 千円）

【利 点】

- ▼教師や PTA に、子どものメンタルヘルスにおける理解を図ること
- ▼教師や PTA から子どもたちへ、援助希求能力の大切さを伝えること

【実施に至るまで】

【背景・必要性・理由の概要・等】

児童生徒に対する自殺予防教育の実践は、一部の関心の高い教師や精神保健関係者の取り組みが散見されるに留まっている。

【計画を立てる上での工夫・等】

- ・人材育成と体制づくり [教員・SC 向け研修の実施]
- ・手法・ツールの提供 [教材の提供と SC と協働する授業プログラムの開発]

三点を基本方針とする。

- ①「生涯にわたるメンタルヘルスの基礎づくり」（援助希求能力の向上）。
  - ②配慮が必要な児童生徒のフォローも授業プログラムの一部に位置づけるなど SC と協働する意義と意図を伝える。
  - ③全校一斉一律の導入ではなく各学校・学級の個々の状況に応じた導入を目指す。
- 三者本来の機能と既存の協力・連携体制を活用することで、三者それぞれにとって無理がなく円滑な運営を実現できるようにした

【具体的な内容・実施の過程】

（１）教材の開発

本市のスクールカウンセラー（以下、「SC」）が多く所属する福岡県臨床心理士会の企画・編集により、授業実施時の教材として「児童・生徒向け自殺予防リーフレット『だれにでも、こころが苦しいときがあるから…』」を、加えて教員向けの「解説書」を制作（平成 21 年度）。

（２）人材育成と自殺予防教育の体制づくり

事業実施2年目より教員・SCへの研修を実施、各学校の体制づくりの基礎となる人材の育成を開始した。教育委員会及び臨床心理士会主催の既存の研修会・会議を活用し、校長、教頭、生徒指導主事・主任、保健主事、養護教諭などを対象に段階的に研修を実施。（平成22年度～）。

### （3）授業プログラムの開発

事業実施3年目よりリーフレットを活用した授業プログラム（指導案）の開発に取り組み、上記（2）の研修を通じて自殺予防教育の必要性とともに紹介。

### 【成果】

①教員向け研修：延32回 延1,723名受講

②各校への導入状況

校内研修 小学校110校、中学校53校、特別支援学校5校

授業 小学校87校、中学校40校、特別支援学校1校

### 【補足】

教材（リーフレット）の特徴

①「こころの状態」を「もやもや度」として表現するフローチャートを採用

②「自殺してはいけない」というメッセージではなく、「誰にでも死にたいほど苦しいときがあるかもしれないが、苦しいときにも必ず終わりがあり、周囲の人に話をすること（支援を得ること）で苦しい気持ちはきっと軽くなる」として、援助希求能力を高めるためのメッセージを伝える。

### 【課題】

①教師に対する研修の継続と拡大

②地域・家庭への拡大

③プログラムの開発継続と質の維持・向上

【事業種別】 人材養成・強化モデル事業

【準備期間・人数】 不明

【予防段階】 1次

【自治体規模】 人口950千人（H29） 1,256,365百万（H29 予算）

【自治体負担率】 1/3

【事業対象】 小・中・特別支援学校の教員・SC

【支援対象】 小・中・特別支援学校の教員・SC

### 【実施主体・問合せ先】

北九州市立精神保健福祉センター

TEL: 093-522-8729

E-mail: ho-assist-seishin@city.kitakyushu.lg.jp

URL: <http://www.ktq-kokoro.jp/>（北九州市いのちとこころの情報サイト）

<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/ho-assist-seishin.html>

【参考資料・文献】リーフレット『だれにでも、こころが苦しいときがあるから…』